５．京田辺市内の小学校との地域学習プロジェクト

文化遺産学コース３・４回生

１．はじめに

文化遺産学コースでは、京都府立大学と京田辺市が締結している包括連携協定に基づく地域学習プロジェクトを 2022 年度から実施している。今年度は 11 月に、昨年実施した京田辺市立三山木小学校に加えて、京田辺市立草内小学校でも実施した。ともに、小学校の時間割で１・２時間目に地域を歩き、３・４時間目にまとめ作業と発表をおこなった。なお、対象児童は三山木小学校４年生６クラス約 180 名と、草内小学校４年生２クラス約 40 名、参加学生は文化遺産学コースの４つのゼミ（考古学・歴史地理学・建築史学・文化情報学）に所属する３・４回生 31 名である。（橋本唯、小島慧音）

２.三山木小学校

（１）全体での事前準備

遠足当日までの活動について述べる。2023 年１月に各ゼミから新４回生の代表者が集まり、代表会の名前を「Ｃ５」に決定した。また、新３回生との顔合わせもおこない、新３回生も各ゼミから代表者を選出した。２月 18 日には新３回生、新４回生で三山木小学校区の下見を実施し、本番のルートの確認や本プロジェクトの新３回生への理解促進を主な目的として巡検をした。本番当日の原稿やパネル、ルート、タイムスケジュールなどは、おおむね昨年のものを踏襲することとした。10 月６日には上杉和央（教員）、武田知奈・山内愛弓・横臼彩江（４回生）が三山木小学校にて小学校教員と打ち合わせをおこなった。10 月 11 日に各スポットに配置する人数や、小学生の引率係、タイムキーパー・撮影係を決定し、昨年の本番の映像を視聴して当日の様子を確認した。11 月１日には史学演習室Ⅱにて予行練習をおこない、全体の流れを確認した。（廣野勝）

（２）当日までの流れ

まず当日（11 月 17 日）の流れを述べる。なお、当初は 11 月 10 日に実施する予定であったが、雨天のため 17 日に延期となった。８時 10 分に三山木駅に集合し、３・４回生全員で記念写真を撮影した後、各班員はそれぞれの担当スポットへ、タイムキーパー・撮影係と引率係は小学校へ向かった。９時から武田知奈の司会で出発式をおこなった。その後、児童ら２クラスにつき撮影係１名と引率係２名が付いて順次出発した。佐牙神社、山本駅石碑・寿宝寺、茶畑の３か所のスポットを巡った後小学校へ戻り、各教室でワークシートの答え合わせなど振り返りをおこなった。各班員は担当スポットの説明終了後、撮影係と引率係は振り返り終了後

に解散した。以下では各班の当日までの流れを述べる。（石川達葵）

【A 班（佐牙神社）】

①当日までの流れ

昨年度の実践や課題を踏まえて、発表者を主体に原稿とパネルの修正をおこなった。全体の流れを詳細に検討したのち、班員にパネルを持つ係や小学生を誘導する係などの役割を割り振り、綿密に打ち合わせをおこなった。

②当日の様子

A 班では、昨年度と同様に佐牙神社について発表をおこなった。まず、佐牙神社の鎮守と三山木小学校校歌との関連性に触れ、鎮守の意味と神社への親しみを感じてもらえるようにした。佐牙神社の名の由来ではクイズを交えたり、「さけ」が「さが」に訛る過程を実演したりするなど工夫を凝らした。他の班とのつながりを持たせるため、佐牙神社の祭礼である砂まきについても説明し、最後に佐牙神社の本殿を拝殿前から見学した。発表の際には小学生へ問いかけをおこない、後方の小学生には発表者以外の班員がサポートにまわり、児童全員が参加の意欲を持てるように心がけた。また、佐牙神社だけでなく、次のスポットへの伏線を張ったり、先に行ったスポットの復習をしたりするなど、全体の学習目標の達成を意識した。

③感想・反省

小学生の反応を見ていると、こちらの問いかけに対して積極的に挙手したり発言したりする児童が多く、意欲的に参加していたことがよく伝わった。発表についてもメモをたくさん取ろうとする姿もみられ、とても嬉しかった。また、大半は佐牙神社には来たことがあったが、砂まきや本殿を見たことがない児童が一定数いることがわかった。これらの点から、一度は訪れたことのある身近な神社に眠るお宝に気づいてもらうきっかけを作ることができたように思う。昨年度の課題であった時間配分は、昨年の経験から大勢の小学生を動かすのに所要する時間や適切な動線の把握とシミュレーションができていたことで解決し、無事成功に収めることができた。一方で小学生が既に地域学習をおこなっており、新知見を与えることができなかった場面が見受けられた。事前に小学校での地域学習のカリキュラムや小学生の知識を十分に把握し、新発見を与えられるよう次回のプロジェクトに取り組んでいきたい。（山内愛弓）

【B 班（山本駅石碑・寿宝寺）】

①当日までの流れ

三山木小学校プロジェクトにて、B 班は山本駅石碑班と寿宝寺班の 2 グループに分かれ、各解説をおこなった。事前に現地でリハーサルをおこない、当日は児童を山本駅石碑と寿宝寺のそれぞれに分けて 1 クラスごとに説明し、終了後に児童の入れ替えをおこなった。両班、解説用パネルを用意し、パネルを持つ係、解説者、双方を行き来するタイムキーパーを設ける体制で進行した。

原稿は昨年度のものを基本とし、寿宝寺班は寺に安置される十一面千手千眼観音立像（以下、千手観音立像）を地域のお宝として取り上げ、小学生に知っているかどうか質問を投げかけながら解説した。山本駅石碑班は、交通の要衝としての三山木の姿を知ってもらうことを目的として発表をおこなった。石碑が「歴史を今に伝える」文化遺産であることを理解してもらえるよう、まず石碑に刻まれた文字を読んでもらい、その意味を解説した後で、駅制や駅家の

意義について説明した。また、駅制を運動会のリレーに準えて説明するといったように、小学生にとって身近なものと結びつけて説明することを心がけた。当日は雨上がりということもあり、児童にはしゃがんで話を聞いてもらうようにした。千手観音像立像について、「重要文化財」という言葉を社会科の授業で習っており、呑み込みが早く、反応も良かったように思う。山本駅については、三山木の地に駅があったことは殆どの小学生が知っていたが、石碑に刻まれた文字についてはあまり知らなかったようで、「驛（駅）」の字義を説明すると興味深そうな反応を見せてくれた。配布したワークシートのメモ欄に熱心に書き込む姿も見られ、よく知っていると思っていたものが実はすごいお宝であるということを、解説を通して知ってもらえたのではないかと思う。

③感想・反省

B 班は各組を入れ替えて解説するということもあり、慣れるまでは児童の移動に時間がかかった。首尾よく誘導ができるよう、事前の段取り確認は徹底的にするべきだろう。反省点として今後に活かしたい。（岩本悠梨、渡邊幸奈、横臼彩江）

【C 班（茶畑）】

①当日までの流れ

まず、三山木地区の茶畑について、班員で昨年の授業の様子や台本を確認した。京田辺が茶栽培に適しているのは、木津川由来の砂が多い水はけのよい土壌による。それをわかりやすく説明するため、水の浸透を可視化する対照実験をおこなうこととした。実験のため、２リットルペットボトルの上下を切ったものと排水口ネットで作った道具を作成した。当日準備では、その道具に木津川の砂を入れたものと園芸用土を入れたものをそれぞれ用意した。

②当日の様子

当日は茶畑が見える堤防に待機し、小学生が到着次第茶畑についての説明をおこなった。説明は昨年度作ったフリップを使いながら４回生が中心となっておこなった。質問を投げかけて答えてもらうなどのコミュニケーションを取りながら進めていった。「玉露」について聞いた際には最初のグループで「昨日の給食で玉露コロッケが出た」という答えがあり、後の２グループへの説明の際に話題として使っていた。茶栽培に適している理由の説明には前述した通り対照実験をおこなった。小学生２クラスを４つに分け、道具の一方に木津川の砂、もう一方に土が入っていることを伝え、両方同時に水を注いだ際どちらが先に水を通すかを観察してもらった。そして木津川の砂を入れた容器の方が水を速く通す様子を確認してもらった。茶畑のポイントとして、「覆下栽培をしているため旨味がある」こと、「水はけがよいため茶の水色が綺麗である」ことの２点を覚えてもらえるよう強調した。

③感想・反省

淡々とした説明に終始せず、小学生とコミュニケーションを取りながら互いに楽しんで取り組めた。反省点としては、タイムスケジュールが押している中でどのように対処するかの事前打ち合わせが無く、当日も対応策が立案できずに時間短縮が上手くできなかったことが挙げられる。時間が押している場合にどこを切ってどこを確実に伝えるかということは事前に確認しておくべきことだった。（島村朱音）

３．草内小学校

（１）全体での事前準備

遠足当日までの活動について述べる。2023 年２月 18 日に新３回生、新４回生で草内小学校区の下見を実施し、校区でスポット候補を巡検した。３月６日には、草内小学校の各クラスを３つのグループにわけ、A 班、B 班、C 班それぞれが設定したルートを巡り、遠足から戻ってきた後学んだことを各クラスでアウトプットするという遠足の全体像が決定した。また、A 班が飯岡地区の古墳など、B 班が水分神社や防賀川など、C 班がため池や野菜などを巡ることを決定した。５月８日に上杉和央、岩本悠梨（４回生）、石川達葵（３回生）が草内小学校で小学校教員と打ち合わせをおこない、計画の概要を確認した。６月には日程が決定した。７月６日には各班のルートとスポットが決定し、その後は各班で原稿やパネル準備を進めた。10 月 24 日に上杉和央、石川達葵・橋本唯・廣野勝（３回生）が草内小学校で小学校教員と打ち合わせをおこなった。会議では、班別行動の際に小学生一人一人が大学生のスマホで写真を撮り、その写真をワークシートに貼ること、撮影した写真を付箋に書いたコメントとともに大学生が用意した草内小学校区のマップに貼ること、マップが完成したらクラスごとに発表会をする、という具体的な方針が決定した。11 月 15 日には史学演習室にて予行練習をおこない、全体の流れを確認した。（廣野）

（２）当日までの流れ

まず当日（11 月 22 日）の流れについて述べる。８時 30 分に草内小学校の正門に集合し、多目的室に荷物を置き、３・４回生全員で記念写真を撮影した。９時から武田知奈の司会で正門前にて出発式をおこなった。その後、小学生約 15 名の班×３班に大学生がそれぞれ約 10 名付き、班ごとにスポットを巡った。11 時 30 分までに全ての班が小学校に戻り、写真の印刷やマップ作成を、４年生の教室２部屋と多目的室で各班がおこなった。機材トラブルにより写真の印刷やマップ作成が遅れ、午前中のうちに振り返りを終了できなかった。そのため午後に一部の学生が残り、クラスごとに振り返りをおこない、訪れたスポットについて各班の児童に発表してもらった。以下では各班の当日までの流れを述べる。（石川）

【A 班（飯岡地区）】

①当日までの流れ

A 班は５月 18 日、６月 29 日、７月 23 日に会議をおこなった。５月 18 日は、事前調べとスポットの振分けを決めた。６月 29 日は、ルートを再検討して今後のスケジュールを共有した。７月 23 日は、現状課題とスポットの振分けを再決定し、この振分けで本番も説明した。８月 24 日に巡検をおこない、スポットの確認とルートの最終決定をした。10 月 11 日にはパネルの作成をおこなった。11 月 21 日に、原稿の最終確認とタイムスケジュールを作成した。

②当日の様子

A 班は草内小学校南側の飯岡地区を巡った。説明をおこなったスポットは普賢寺川、飯岡車塚古墳、茶畑の３か所である。普賢寺川では天井川の仕組みについて、飯岡車塚古墳では古墳そのものの説明や地域での位置づけ、茶畑では栽培方法や飯岡地区独自の土地利用法についてそれぞれ説明をおこなった。小学生は天井川の仕組みについては良く知らなかったようだが、

お茶については詳しく知っていた。さらに薬師山古墳と豊田翁を小ネタとして説明した。薬師山古墳では木津川への眺望、豊田翁については彼の功績についてそれぞれ紹介した。豊田翁についても、小学生は地域学習で学習していたようであった。また小学生が見つけた地域の「お宝」の写真を道中で適時撮影した。小学校に戻った後、地域の「お宝」の写真を印刷し、マップを作成した。

③感想・反省

A 班は原稿の修正が本番前日までかかってしまったので、来年度は余裕を持って原稿を作成したい。また、草内小学校は地域学習が盛んで、小学生もかなりの知識を持っていたり、現地も実際に訪れていたりしたので、それを上回る知識を提供できるように入念に準備したい。それに関連して、今回スポットとして小学生に説明した飯岡車塚古墳について、考古学研究室で調査した成果（吉永 2022、諫早ほか 2023）も活用したい。小学校に帰った後のマップ作成では、機材のトラブルによる待ち時間が生じてしまったので、来年はそのようなことが無いように準備したい。（石川）

【B 班（東地区）】

①当日までの流れ

B 班は「水と暮らし」をテーマに、洪水対策や川辺の公園にある防災対策について児童とともに歩きながら、地域のお宝を探した。主要スポットは水分神社、草内集落、防賀川公園の３地点である。小ネタに咋岡神社参道の燈籠、マンホール、立樋を取り上げた。５月と 10 月に２度現地を訪問し、１度目は解説する地点を探し、２度目はルートや交通量の確認をおこなった。各スポットと小ネタ班、ワークシート班に分かれ、解説やパネルを作成した。

②当日の様子

当日の主な役割は先頭を歩く誘導、各組のカメラ、タイムキーパーで、適宜交通整理をおこなった。児童は授業で洪水に関する内容をすでに学習していた。小学校に戻ったのは予定を 10 分過ぎていた。到着後、写真を印刷し、マップを作成した。帰校予定時刻に間に合わなかった原因として、移動時に１組と２組に間ができてしまうことが多々あり、先頭が歩みを遅くして調整したこと、また各スポットで解説後に空白時間ができてしまったことが挙げられる。前者は先頭が歩く速さを調節するとともに、後方からもついていくよう指示する必要があり、後者は学生側で事前の打ち合わせをより綿密にしておく必要があったかと思われる。そして帰校後の印刷時にネットワークがつながらず、スマホとパソコン間で写真データが共有できないという問題が発生した。事前準備と確認不足が課題だろう。

③感想・反省

解説の反応は良く、探検の目的は達成しただろう。登下校で通り、よく知っている場所でも「こんなのあったんだ！」という声が上がっており、新たな発見があったようで良かった。大学生側も小学生とのコミュニケーションをよく取れていた。（岩本、渡邊、横臼）

【C 班（新興戸地区）】

①当日までの流れ

C 班では５月頃から具体的なスポット選定をし、班員で分担して調べ学習を進めた。当日歩くルートもおおむね決めたうえで、７月には現地視察をした。現地視察ではスポット間の所要

時間や交通量の確認、小ネタとなるスポットを探した。８月頃からは原稿作成やパネル作成にとりかかり、小学生に分かりやすく端的に情報を伝えられるように修正や調整を繰り返した。

②当日の様子

Ｃ班は、近鉄興戸駅近くにある防賀川の天井川の跡、海老芋や京都田辺茄子といった京田辺の農業、草路城と咋岡神社、という主に３つのスポットを巡った。各スポットではパネルを小学生に見せながら説明し、メモを取る時間も与えながら丁寧に解説をした。防賀川では土砂の堆積をキーワードに防賀川が天井川になった経緯や天井川は防災の観点から危険な存在であることなどを説明した。農業の説明では、海老芋が土寄せと呼ばれる作業によってイモの形が曲げられていること、一度海老芋を栽培した畑ではコメを栽培すること、ナスの栽培に適した条件、興戸方式と呼ばれる京田辺独自の栽培方法について解説した。咋岡神社では海老虹梁や蟇股といった神社建築の装飾について触れ、現在の神社の場所が昔は草路城であったことを交通の要衝という観点と絡めて説明した。スポットとスポットの間ではマンホールの話などの小ネタも挟みつつ小学生と歩いた。小学生と大学生の人数がほぼ同数であったこともあって、大学生と小学生がほぼ一対一で接していた。探検終了後は教室に戻り、ワークシートへの写真張り付け、マップへの写真や付箋の貼り付けをおこなった。

③感想・反省

当初の予定では１時間目と２時間目の時間でスポットを巡って学校に戻るという予定であったが、予定よりも大幅に遅れて学校に到着した。一番の原因は誰かが写真を撮ってほしいと大学生に頼むと、他の小学生が自分も撮ってほしいと次々に言い始めるということが多々あり、結果として列の進行を止めるという事態が何度か起きてしまったことであると思われる。改善策としては大学生のカメラ係をもう少し増やすことが考えられる。今回はＣ班で２名カメラ係を選出し、小学生が要望する写真を撮影したのだが、複数名が同じ場所で写真を撮りたいと言い出すとカメラ係２名だけでは対処しきれていなかったため、カメラ係の人数を増やす、もしくは大学生全員がカメラ係となることで、列の進行を止めないことに徹底する必要性を感じた。また、スポットで説明している際にメモをたくさん取る児童とメモを取るように促さないとメモしない児童がいたため、どちらの児童にも配慮した説明をすることが大切である。加えて、探検終了後の作業時間では小学生への指示が曖昧であったり遅くなったりしたので、想定外の事態が発生した際のシミュレーションもしておくべきである。（廣野）

４．おわりに

以上が、今年度の京田辺市内小学校との地域学習プロジェクトの概要である。両校とも無事に授業を実施できて安堵している。

児童たちは、普段何気なく通っている身近な地域の寺社や公園、古墳などが、長い歴史や価値ある文化財を持っている「お宝」であることを知ってとても興味深そうにしており、一定の成果があったのではないか。特に草内小学校の児童たちは、大学生が説明したスポットや小ネタに加えて、自分たちで地域の「お宝」を見つけて写真におさめることができた。これからもその視点を忘れずに身近な地域を見つめていって欲しい。

ただし、大学生側の視点からみると課題も多々あったのではないか。今年度は、昨年度も

授業を実施した三山木小学校と、今年度新たに準備して授業を実施する草内小学校の２校で授業をおこなうということで、同時に準備を進めることや、４回生から３回生への引継ぎなど新たな課題や問題が生まれた。三山木小学校については、昨年度とおおむね同じ構成であったため、反省を生かして微修正できた。

以下では、来年度に向けた草内小学校での授業の課題を述べる。

授業実施後の反省会では、事前の準備不足や、小学生に撮ってもらった地域の「お宝」の写真に関する様々な課題、機材トラブルに端を発するマップ作成の遅れ、時間配分ミスなど多くの問題点が挙げられた。草内小学校は大学生の想像以上に地域学習が盛んで、小学生もかなりの知識を持っており、それを上回る知識を提供できるように来年度は準備したい。写真に関する課題は、児童が撮影するスポットの偏りがみられたこと、児童が映った写真の個人情報面の扱いで苦慮したりするなどの事態が挙げられる。マップ作成の遅れは突然の事態で、学生が上手く対応できなかった。マップ作成の遅れや時間配分ミスについては、急遽振り返りの時間を午後に設けて頂くなど、小学校側にも多大なご迷惑をおかけした。来年度の草内小学校の授業では、これらの課題を克服した授業を小学生に提供したい。（石川）

参考文献

吉永健人 2022「京田辺市飯岡車塚古墳出土埴輪の再整理」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第８号　京都府立大学文学部歴史学科

諫早直人ほか 2023「京田辺市飯岡車塚古墳出土石製品の３Ｄスキャン」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第９号　京都府立大学文学部歴史学科

写真１　集合写真（三山木）

写真２　A 班佐牙神社（三山木）

写真３　B 班山本駅の石碑（三山木）

写真４　C 班茶畑（三山木）

写真５　A 班飯岡地区（草内）

写真６　B 班東地区（草内）

写真７　C 班新興戸地区（草内）

写真８　学校でのまとめ（草内）

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、３年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。（き）

京都府立大学文学部歴史学科
フィールド調査集報　第 10 号

編集・発行　京都府立大学文学部歴史学科
〒 606-8522　京都市左京区下鴨半木町 1-5
発　行　日　2024 年 3 月 30 日
印　　刷　株式会社 北斗プリント社
〒 606-8540　京都市左京区下鴨高木町 38-2